

Ⅳ章 災害対策専門職員の育成

1 災害対策専門研修

当センターはその機能の一つとして、「災害対策専門職員の育成」を掲げており、地方自治体の首長や防災を担当する職員等を対象とする「災害対策専門研修」を実施している。

1 節 災害対策専門研修

1 項 全体概要

センターの人材育成事業のうち、「災害対策専門研修」は、地方自治体の首長を対象とする「トップフォーラム」、地方自治体の防災担当職員を主な対象とする「マネジメントコース」、「特設コース」に大別される。

「マネジメントコース」は、受講者の能力に応じてステップアップしていく体系をとっており、ベーシック、エキスパート、アドバンストの3コースに分類している。

また、「特設コース」は、テーマや対象者を絞り込んだ研修コースであり、令和7年度は、マネジメントコース・アドバンストと合同開催する「防災監・危機管理監コース」のほか、「エキスパート特設演習」を実施した。

コース名	目 的	対 象
トップフォーラム	今後発生する災害に対し、地方自治体のトップに求められる対応能力の向上を図る	知事、市区町村長
マネジメントコース・ベーシック	阪神・淡路大震災等の経験を踏まえた各部門の災害対策のあり方など基礎的な事項について体系的に学習する。	地方自治体における防災・危機管理担当部局の職員のうち経験年数の浅い者
マネジメントコース・エキスパートA・B	災害対応の具体的事例や演習などを通して、大規模災害発生時に各種対応が同時並行的に展開する状況を横断的・総合的にとらえ、これに対処する能力の向上をめざす。	地方自治体における防災・危機管理担当部局の職員（ベーシック修了者若しくは同等の知識を有する者又は防災業務に通算2年以上従事している者）
マネジメントコース・アドバンスト／特設コース・「防災監・危機管理監コース」	大規模災害発生時に政策的な判断を迫られる事項等について演習・講義等で学び、地方自治体のトップを補佐する者としての能力の向上をめざす。	地方自治体における防災・危機管理担当部局の職員のうち、災害対策本部の中核的な役割を果たそうとする者（エキスパート修了者又は同等の知識を有する者）
特設コース・エキスパート特設演習	災害対策本部運営に携わる職員が災害対策本部長等に適切な災害対応を提言できることを目的とする。	地方自治体における防災・危機管理担当部局の職員（エキスパートA、エキスパートB、アドバンストのいずれかの修了者）



災害対策専門研修の応募状況

(単位：人)

コース	区分	2021	2022	2023	2024	2025
		(R03)	(R04)	(R05)	(R06)	(R07)
ベーシック	応募者	114	141	143	101	110
	定員	70	70	120	70	70
	受講者	86	117	84	66	70
エキスパート（春）	応募者	53	108	71	79	－
	定員	56	40	80	80	－
	受講者	31	97	63	68	－
エキスパート（秋）	応募者	79	60	54	53	104
	定員	56	100	72	60	60
		58	59	52	48	68
アドバンスト	応募者	22	33	29	27	28
	定員	28	20	40	40	36
	受講者	7	30	26	25	25
図上訓練／広報コース	応募者	－	－	－	－	－
	定員	－	－	－	－	－
	受講者	－	－	－	－	－
エキスパート特設演習	応募者	中止	38	中止	35	30
	定員		38		30	36
	受講者		38		27	29

※受講者数については、一定の出席要件を充足し、受講証明書を授与した者を計上している。

2項 各研修実施内容

1 災害対策専門研修「トップフォーラム」

地方自治体の首長等を対象としたトップフォーラムは、佐賀県、秋田県及び島根県の3県と共催し、現地で実施した。

研究成果による知見等をもとに今後発生する災害に対し各自治体のトップに求められるリーダーシップや目標管理型の災害対応の必要性などについて講義や演習を行い、自治体の防災・危機管理体制の一層の充実を図った。

(1) 内容

ア トップフォーラム in 佐賀

- ① 日 時：令和7年8月21日（木）10:00～15:15
- ② 場 所：グランデはがくれ
- ③ 参 加 者：講義の部：18人、演習の部：13人
佐賀県幹部、佐賀県内の市町長、副市町長、
市町防災幹部等市町防災幹部等
- ④ 内 容：カリキュラムの詳細は参考資料（180頁）に掲載

イ トップフォーラム in 秋田

- ① 日 時：令和7年11月27日（木）10:00～15:15
- ② 場 所：秋田県庁
- ③ 参 加 者：講義の部：23人、演習の部：8人
秋田県幹部、秋田県内の市町村長、副市町長、市町防災幹部等
- ④ 内 容：カリキュラムの詳細は参考資料（181頁）に掲載

ウ トップフォーラム in 島根

- ① 日 時：令和8年1月26日（月）10:00～15:15
- ② 場 所：島根県庁
- ③ 参 加 者：講義の部：19人、演習の部：19人
島根県知事、島根県内の市町村長、副市町村長、県市町村防災幹部等
- ④ 内 容：カリキュラムの詳細は参考資料（182頁）に掲載



TF 佐賀 講義の様子



TF 秋田 演習の様子



TF 島根 模擬記者会見の様子

(2) 評価（受講者の声）

ア 研修内容に関する満足度（100点満点）87.7点（3県平均）

イ 参加者の具体的意見

- ・演習は、災害の状況を把握して、それぞれの課題に対して具体的な対応を実施する時のノウハウを学びました。
- ・模擬記者会見は苦手の感があり大変いい機会になった。
- ・市町村長が、直接受講することが望ましいと感じました。

2 災害対策専門研修「マネジメントコース」

マネジメントコースでは、最終目標として「首長に対して的確なアドバイスが提示できる」人材の育成を掲げ、受講者の能力に応じてステップアップしていくことができるコース体系を組んでいる。

また、カリキュラムについては、最終目標を念頭に、①防災の中核を担う人物に必要な能力及び知識の洗い出し、②その能力及び知識を身につけさせるための具体的な講義方法の検討、③各レベル（ベーシック、エキスパート、アドバンスト）への講義の振り分け及び重複するものの精査、と手順を踏んで設計し、各レベルで必要となる能力及び知識の明確化等を図っている。

なお、令和7年度は全コースを対面で実施した。

(1) コース別受講者数 ※1

（単位：人）

ベーシック ※2	春 期		6/ 4（水）～ 6/ 6（金）	70
エキスパート ※2	秋 期	A	10/ 7（火）～ 10/10（金）	35
		B	10/21（火）～ 10/24（金）	33
	エキスパート 小計			68
アドバンスト ／防災監・危機管理 監 ※2	春 期		6/10（火）～ 6/11（水）	25

※1 受講者数については、一定の出席要件を充足し、受講証明書を授与した者を計上している。

※2 定員は春期はベーシック70人、アドバンスト／防災監・危機管理監コース36人、秋期はエキスパートA・B各30人

(2) 受講者の所属

（単位：人）

区分	都道府県	市区町村	国	その他	合計
兵庫県	7	23			30
近畿地方（兵庫県を除く）	2	42			44
北海道		6			6
東北地方	2	2			4
関東地方	3	7			10
中部地方	3	32		2	37
中国・四国地方	3	16			19
九州地方	1	12			13
合 計	21	140		2	163
団体数	11	98		1	110

※ 近畿・中部・中国・四国地方を中心として、全国各地から参加があった。また、市町職員を中心として、県職員からも参加があった。

(3) 内 容

カリキュラムの詳細については、参考資料（183 頁）に掲載した。

なお、カリキュラムに掲載の所属・役職はその出講当時のものである。

【出講講師一覧】

※外部講師は氏名五十音順

講師所属	講師役職	講師氏名
人と防災未来センター	センター長	河田 恵昭
人と防災未来センター	副センター長（総括担当）	高見 隆
人と防災未来センター	上級研究員	越山 健治
人と防災未来センター	上級研究員	高鳥毛敏雄
人と防災未来センター	上級研究員	武田 文男
人と防災未来センター	上級研究員	田村 圭子
人と防災未来センター	上級研究員	中北 英一
人と防災未来センター	上級研究員	山崎 登
人と防災未来センター	上級研究員	渡辺 研司
人と防災未来センター	客員研究員	清野 純史
人と防災未来センター	客員研究員	福和 伸夫
人と防災未来センター	客員研究員	矢守 克也
人と防災未来センター	主任研究員	山崎真梨子
人と防災未来センター	主任研究員	池端祐一朗
人と防災未来センター	研究員	松村 圭悟
人と防災未来センター	研究員	南 貴久
人と防災未来センター （銀座パートナーズ法律事務所 / 岩手大学地域防災研究センター / 新潟大学研究統括機構 / 防災科学技術研究所）	特別研究調査員 （代表弁護士・博士（法学） / 客員教授 / 客員教授 / 客員研究員）	岡本 正
人と防災未来センター （国立研究開発法人 防災科学技術研究所 災害過程研究部門 / 内閣府政策統（防災担当）付参事官（防災デジタル・物資支援担当）付）	リサーチフェロー （客員研究員 / 参事官補佐（併））	宇田川真之
人と防災未来センター （関西大学社会安全学部）	リサーチフェロー（教授）	奥村与志弘
人と防災未来センター （神戸学院大学 / 元読売新聞編集委員）	リサーチフェロー （客員教授）	川西 勝
人と防災未来センター （三重県防災対策部災害即応・連携課）	リサーチフェロー （課長補佐兼班長）	岸江 竜彦
人と防災未来センター （株式会社エー・ビー・シー リブラ ビジネス開発部）	リサーチフェロー （部長）	木戸 崇之
人と防災未来センター （関西国際大学）	リサーチフェロー （客員教授）	斉藤 容子
人と防災未来センター （兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科）	リサーチフェロー （教授）	阪本真由美
人と防災未来センター （大阪公立大学大学院文学研究科）	リサーチフェロー （准教授）	菅野 拓
人と防災未来センター （日本大学危機管理学部）	リサーチフェロー （准教授）	中林 啓修
人と防災未来センター （東海国立大学機構名古屋大学減災連携研究センター）	リサーチフェロー （准教授）	平山 修久

人と防災未来センター (伊勢市危機管理部危機管理課)	リサーチフェロー (主幹)	藤原 宏之
人と防災未来センター (元 長野県 危機管理部 危機管理防災課 火山防災幹)	リサーチフェロー	古越 武彦
人と防災未来センター (兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科)	リサーチフェロー (准教授)	松川 杏寧

講師所属	講師役職	講師氏名
神戸地方気象台	防災気象官	天野 智裕
兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 (元芦屋市市長室室長 / 前熊本県益城町危機管理監)	客員研究員	今石 佳太
防災科学技術研究所 総合防災情報センター	センター長	白田裕一郎
内閣府政策統括官(防災担当) 付 参事官(防災デジタル・物資支援担当) 付	参事官補佐	大江 昌久
兵庫県こころのケアセンター	特別研究員	大澤 智子
神戸市看護大学看護学部 基盤看護学領域 災害看護・国際看護学分野	教授	神原 咲子
兵庫県立大学環境人間学部 大学院環境人間学研究科	教授	木村 玲欧
飯田市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 / 国民スポーツ大会推進室 (前飯田市危機管理部危機管理課課長)	課長 / 室長	後藤 武志
関西国際大学 / 兵庫県立大学 (元兵庫県防災監)	名誉教授 / 客員教授	齋藤 富雄
東北大学災害科学国際研究所	准教授	佐藤 翔輔
兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科	准教授	澤田 雅浩
常葉大学	名誉教授	重川希志依
大阪府吹田市総務部危機管理室	参事	柴野 将行
香川大学創造工学部	准教授	竹之内健介
J パックス株式会社 / 全国段ボール工業組合連合会	代表取締役 / 防災担当アドバイザー	水谷 嘉浩
特定非営利活動法人(認定 NPO 法人) 全国災害 ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)	事務局長	明城 徹也
株式会社サイエンスクラフト / 千葉大学	防災部長 / 非常勤講師	元谷 豊
関西大学社会安全学部	教授	山崎 栄一

(4) 評価(受講者の声)

受講者から提出された評価レポートによる評価は以下のとおりである。

◆ 研修全体に対する満足度の点数評価(100点満点)の平均は93.5点であり高い評価を得た。

◆ 特に、次の講義や演習が高い評価を得た。

<講義>

- ・ベーシックコース:「行政における災害対応業務の実際」、「災害対応+危機管理総論」
- ・エキスパートAコース:「災害対応各論(災害関連死)」、「災害対応各論(能登半島地震での対応)」
- ・エキスパートBコース:「地域防災計画論」、「図上訓練設計」
- ・アドバンスト/防災監・危機管理監コース:行政対応特論②～応急期に被災地支援に入った際の経験より～等

<演習>

- ・ベーシックコース：「ふりかえりワーク」
- ・エキスパートAコース：「全体振りかえりワーク」
- ・エキスパートBコース：「災害対策本部の空間構成設計演習」
- ・アドバンスト／防災監・危機管理監コース：「災害対応検討ワークショップ」等

◆ベーシックコース受講生からの意見

- ・災害対策に対する基礎的な知識など、業務に携わるうえで欠かせない情報に触れることができた。
- ・他市町村との関わりが持て非常に良い時間でした。

◆エキスパートコース受講生からの意見

- ・2回のワークショップが講義内容を頭に落とし込む良い機会になりました。
- ・横の繋がりが広がるようになってくれた。講義も新しい知識ばかりが広がり大変良かった。

◆アドバンスト／防災監・危機管理監コース受講生からの意見

- ・最新のトレンドを知り、自治体特に災害対策本部の問題認識を共有できた。
- ・理解不足の部分を補え、またワークショップは、臨場感があり、大変有意義でした。



演習の様子



受講生の様子

(5) Disaster Manager

災害対策専門研修の一層の普及を図るため、平成19年度から研修修了者に対して、「Disaster Manager」の称号を付与し、Disaster Managerカードを発行している。(平成14年度～18年度の研修修了者にも平成19年度に発行済)

- ・エキスパート（シルバーカード）：エキスパートA・B両方を修了した者
- ・アドバンスト（ゴールドカード）：エキスパートA・B両方を修了し、かつアドバンストを修了した者

令和7年3月末現在 エキスパート（シルバーカード） 478人
 アドバンスト（ゴールドカード） 92人

(6) 災害対策専門研修サポーター

Disaster Manager 授与者の中から、災害対策専門研修サポーターとして参加する意欲のある者（原則として、現在も行政機関において防災関係業務を担っている者）を登録し、登録者の中から研修コースの担当者を選考している。

サポーターには、演習のファシリテーター等の研修補助や研修内容の充実を図るための助言を依頼するとともに、受講者間の交流を支援していただき、自治体災害対応職員のネットワークの拡充を図っている。

- ・令和7年度登録者：34人
- ・対象の研修コース：ベーシック、エキスパートA・B、エキスパート特設演習
- ・令和7年度サポーター参加者：5人（ベーシック：2名
秋エキスパートA・B研修：3名）

3 災害対策専門研修「特設コース」

テーマ、目的、対象者を絞り、災害対応の個別課題等に対する対応能力を向上させるための特設研修を実施した。

(1) エキスパート特設演習

避難により守った命をつなぐために必要な行政の被災者支援について、避難所を中心に学び、考える研修を実施した。

ア 日時：令和8（2026）年1月20日（火）10時00分～17時00分

イ 場所：人と防災未来センター東館6階会議室

ウ 参加者：29名

エ 内容

講義では、令和6年能登半島地震の教訓や指針改定を踏まえ、避難により守った命をつなぐ支援の本質を学び、講義で学んだ「尊厳を守るプロセス思考」を、ワークショップにおいて具体的な事例を用いて実践的に学びます。

※カリキュラムの詳細については、参考資料（187頁）に掲載

オ 評価（受講者の声）

- ① 研修内容に関する満足度（100点満点）93.5点
- ② 研修受講者からは、「スフィア基準の数値指標ではなく、その本質的な考え方を学ぶことができた。」「発表で自身の考えを言うことで理解を深め、他者の意見を聞くことで発見をし、今後に向けて取り組むことを明確にできたと思う。」といった声が寄せられた。



講義の様子



演習の様子



V章 交流・ネットワーク

- 1 国際防災・人道支援協議会の活動
- 2 友の会
- 3 防災・減災の普及啓発活動

研究活動等を通じた学術交流のネットワークや研修事業OB等とのネットワークなどの人的ネットワークの形成に努めるとともに、神戸東部新都心（HAT 神戸）に立地する防災関係機関との連携を進めるなど、人と人、機関と機関の交流・ネットワークを通じた事業を展開している。

1 節 国際防災・人道支援協議会の活動

1 項 概要

神戸東部新都心（HAT 神戸）を中心に立地する防災や人道支援など多様な国際的機関が連携を図り、それぞれの機関がその機能を効果的に発揮し、国際的な防災・人道支援活動に貢献することを目的とする。

- (1) 名 称 国際防災・人道支援協議会
(英語名称：Disaster Reduction Alliance (DRA))
- (2) 設立年月日 平成 14 年 10 月 10 日
- (3) 事 務 局 人と防災未来センター (DRI)
- (4) 構成メンバー 会員 19 機関、オブザーバー 7 機関（令和 7 年度末現在）

【会員】

アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN)
 アジア防災センター (ADRC)
 神戸地方気象台
 神戸赤十字病院
 国際エメックスセンター (EMECS)
 国際協力機構 (JICA) 関西センター
 国際復興支援プラットフォーム (IRP)
 国連人道問題調整事務所 (OCHA) 神戸事務所
 国連防災機関 (UNDRR) 神戸事務所
 WHO 健康開発総合研究センター
 地球環境戦略研究機関 (IGES) 関西研究センター
 日本赤十字社 (JRCS) 兵庫県支部
 兵庫県国際交流協会 (HIA)
 兵庫県災害医療センター (HEMC)
 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科
 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 (Hem21)
 研究戦略センター
 人と防災未来センター (DRI)
 こころのケアセンター (HITS)
 兵庫耐震工学研究センター (E-Defense)

【オブザーバー】

内閣府政策統括官（防災担当）
 外務省地球規模課題総括課
 外務省緊急・人道支援課
 兵庫県
 兵庫県立大学
 兵庫県立美術館
 神戸大学

2項 活動

国際防災・人道支援フォーラム 2025 II を開催した。

1 国際防災・人道支援フォーラム 2025 II（DRA フォーラム）

(1) 開催概要

阪神・淡路大震災を経験した神戸で国際的に防災・減災活動を行っている国際防災・人道支援協議会（DRA）は、構成機関が連携して毎年フォーラムを開催し、安全で安心な減災社会実現に向けた提言を、国内外に発信し続けている。

今年度のフォーラムは、令和7年1月に開催された「気候変動に立ち向かう災害対策パート1」に続き、阪神・淡路大震災から30年という節目の年に、気候変動と災害という地球規模の課題に対し、国際的な知見と連携を深める貴重な機会となり、また、今年、開催した大阪・関西万博に合わせて、兵庫県では9月15日から21日までを「災害からの創造的復興ウィーク」と位置づけて開催した。

主 催 国際防災・人道支援フォーラム実行委員会

日 時 令和7年9月17日（水）13:30～16:30

テーマ 「気候変動に立ち向かう災害対策Ⅱ ～ 本気の防災立国を目指す第一歩 ～」

開催方法 会場：神戸ポートピアホテル 偕楽の間 参加者 85 人

YouTube 視聴：（日本語版 496 回、英語版 36 回 合計 532 回）

(2) 内容

① 開会あいさつ

河田 恵昭 国際防災・人道支援協議会（DRA）会長／人と防災未来センター長

齋藤 元彦 兵庫県知事

大橋麻希子 内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（国際担当）付参事官補佐

② 基調講演

・演題「社会現象の相転移とそれを活用した事前防災対策」

・講師 河田 恵昭 国際防災・人道支援協議会（DRA）会長／人と防災未来センター長

③ パネルディスカッション

・テーマ：創設される防災庁が目指す目標

<出演者>

<総括>

河田 恵昭 国際防災・人道支援協議会（DRA）会長／人と防災未来センター長

<パネリスト>

中北 英一 京都大学 総長特別補佐 名誉教授

高薮 出 理学博士（気象学）フリーランス

山田 朋人 北海道大学大学院工学研究院 教授

④ 総括・閉会

河田 恵昭 国際防災・人道支援協議会（DRA）会長／人と防災未来センター長



2節 友の会

1項 概要

人と防災未来センター友の会は、センターと連携し、防災の重要性や共に生きることの素晴らしさを学ぶとともに、災害時における諸活動への支援や社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立された。

令和7年度会員数は、個人会員36名、法人会員3法人であった。

2項 令和7年度の事業について

1 総会の開催

- (1) 開催日：令和7年6月16日（月）
- (2) 場 所：人と防災未来センター セミナールームA

2 友の会主催事業

- (1) 講演会
日 時：令和7年6月16日（月）
場 所：人と防災未来センター
- (2) センター支援事業
夏休み防災未来学校 2025
日 時：令和7年8月16日（土） 10：30～、13：30～ 各1時間
場 所：人と防災未来センター
- (3) 防災施設見学会
開催日：令和7年11月9日（日）
見学施設：福良港津波防災ステーション（南あわじ市）
北淡震災記念公園 野島断層保存館（淡路市）
- (4) 被災地支援事業
開催日：令和7年12月26日（金）
場 所：石川県珠洲市
内 容：一般社団法人ADI災害研究所の能登半島地震被災地支援への協力
（石川県珠洲市まちづくり協議会へクリスマスプレゼントを贈呈）

3 会員による自主防災活動への支援

- (1) 防災学習・啓発資材の提供
会員に対する、防災学習書籍の貸出
- (2) 法人会員 防災活動支援助成制度
法人会員の防災力向上に資することを目的として、法人会員が社員を対象に主催する防災研修で招く講師にかかる謝金等の1／2（ただし、上限3万円）を助成
- (3) 地域防災活動の情報発信
会員から提供された会員による地域防災活動をホームページに掲載して広く情報発信

4 情報配信事業

会員に対して、文書により人と防災未来センター及び（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構の各種イベントを紹介するとともに、刊行物を送付した。



5 会員の加入促進

- (1) 入会案内チラシの配布及び配置
当センター西館1階 総合案内前及び2階 防災未来ギャラリー前の通路に入会案内
チラシを設置
- (2) 人と防災未来センターホームページによる入会案内
- (3) 会員への情報提供の際、家族・友人への入会勧誘を依頼

【参考】会員特典

ア 無料入館

- ①個人会員…会員証の提示により無料入館可、無料招待券3枚進呈
 - ②法人会員…無料招待券50枚進呈
- イ 新規入会者への所蔵資料図録の進呈

3節 防災・減災の普及啓発活動

1項 交流イベント

1 防災100年えほんプロジェクト

世界のあらゆる国の幼児から高齢者まで全ての人に役立つ防災絵本を制作し、国内外への普及啓発による災害に負けない生活習慣づくり（災害文化の創造）を目指す取り組みを推進した。

(1) 「ものがたり募集（第3回）入選者表彰式」「絵本第4作『板チョコの日』出版報告会」の開催

プロジェクトから令和7年3月に刊行した防災絵本「板チョコの日」の出版報告会及び前年度に決定した「防災100年ものがたり（絵本の原案）募集（第3回）」入選者の表彰式を開催した。

日程：令和7年4月6日（日）14:00～16:00



(2) 防災100年えほんの寄贈

上記「板チョコの日」を全国の図書館、災害伝承ミュージアム等約300施設に寄贈した。

(3) 防災100年ものがたり（絵本の原案）

防災100年えほんの原案となる「防災100年ものがたり募集（第4回）」を実施し、応募作品の中から選定委員により入選作品を決定した。

①募集

期間：令和7年9月1日（月）＜防災の日＞
～10月13日（月祝）＜国際防災デー＞

応募数：65作品

②入選作品の決定

選定委員：河田 恵昭（人と防災未来センター長）

竹下 景子（俳優・こども本の森神戸名誉館長）

池上三喜子（公益財団法人市民防災研究所理事・特別研究員）

住田 功一（大阪芸術大学教授・元NHKアナウンサー）

山田 千夏（神戸の絵本専門店「えほんのトコロ」店主）



入選：6 作品

作品名	作者名
行け！だいふくマン	まえだまさき
神様になったけんさん	国重久司
ハナミズキのしろいみち	山形梢
迷い犬カツの旅	ほりぐちひさこ
やさしい気持ちを言葉にのせて	すぎやまみやこ
よってきいな	つつみたくみ

結果発表：令和8年1月16日（金）

（4）絵本制作

プロジェクトのえほんクリエイターズ・クラブ登録者から、絵本化の提案を募集し、編集会議によるコンペにて絵本化作品を決定した。

①絵本化：2 作品

- また、かえりみちがわからなくなった。

原案：ありの くろき 文：まめそら 絵：くぼた ひろこ

発行：つむぐ舎

出版日：令和8年3月11日（水）

- せんせいからこどもたちへ

原案：いはら つばさ 作・絵：はまだ みわ

発行：神戸新聞総合出版センター

出版日：令和8年3月31日（火）

②次年度の絵本化決定作品：1 作品

- 君の足は流星になって（仮称）

原案：にしあみ れお



（5）Library の公開

オンライン公式WEBサイト「Library」において、これまでの「防災100年ものがたり」の入選作品を掲載している。

プロジェクトでは、刊行した防災絵本の世界発信を目的としていることから、このうち、ものがたり（第1回）の入選10作品の英訳版と、防災絵本3作品（「たったひとつのおやくそく」「おじょうさんのおけしょうがかり」「ぼうさいバッグのちいさなポケット」）の英語パイロット版を公開。

2 日本災害伝承ミュージアム・ネットワーク

全国に所在する災害伝承ミュージアム施設の情報共有・交流の場として、「日本災害伝承ミュージアム・ネットワーク」を形成し、毎年、テーマを定めてフォーラムを開催している。本年は「防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2025 in 新潟」を会場として、「日本災害伝承ミュージアム・ネットワークセッション 2025」を実施した。

(1) 日本災害伝承ミュージアム・ネットワークセッション

タイトル：共に取り組みたいこと・できそうなこと

内 容：全国の災害伝承ミュージアムから、施設運用に関わる当事者が集い、各施設の取組やネットワーク化を見据えた提案等について意見交換を行った。これを通じて、日本各地の災害伝承ミュージアムの全体像理解を深めるとともに、今後の連携や連帯の方向性を共有した。

日 時：令和7年9月7日（日）12:30～14:00

会 場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター（新潟市中央区万代島6番11号）
※令和7年9月6日（土）～7日（日）開催「防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2025 in 新潟」内

登壇者：＜プレゼンター＞

山住 勝利（ふたば学舎／兵庫県神戸市）

大場 玲子（名古屋市港防災センター／愛知県名古屋市）

梅津 拓斗（東日本大震災・原子力災害伝承館／福島県双葉町）

堀田 弥生（防災専門図書館／東京都千代田区）

＜コメンテーター＞

河田 恵昭（阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長）

林 勲男（国立民族学博物館 名誉教授、人と防災未来センター資料室
震災資料研究主幹）



3 Memorial Conference in KOBE BEYOND 30+ 2026

(1) 趣旨

阪神・淡路大震災から30年。“あの日”の悲劇を繰り返さないために、震災を検証し、次世代に伝え、次の災害に教訓を活かすために、これまで「メモリアル・コンファレンス・イン・神戸」「災害メモリアル KOBE」「災害メモリアルアクション KOBE」と活動が続けてきた。

震災から30年の節目を迎え、この30年間の活動を通じて向き合ってきた挑戦をあらためて問い直し、未来へと進む力へと変えていく企画として、新たに「BEYOND 30+」（ビヨンド・サーティー・プラス）の取り組みをスタートした。

災害の語り継ぎや防災・減災に関する活動を行っている団体、学校、企業など、合計14団体による活動紹介セッションを実施し、各参加団体は、ポスターや製作物などを用いて、

それぞれの取り組み内容を紹介した。

パネルディスカッションは、「Beyond 30+ を考える」をテーマに開催し、コーディネーター、人と防災未来センター研究部研究員、学生や生徒のパネリスト4名と企画実行委員5名が登壇し、会場の参加者にも意見を紙に書き留めてもらい、壇上から気になる意見に対して質問を行うなど、一体となって活発な意見交換が行われた。

現在の実行委員会は大人のメンバーで構成されているが、今後は中学生、高校生、大学生、初参加者も歓迎し、参加者の「やりたい」という気持ちに全力で寄り添っていききたい。新しい取り組みやアイデアも持ち寄り、共有し、新しい仲間とつながることで、次世代の防災の未来を共に築いていきたい。

(2) 実行組織

ア 主催

人と防災未来センター、京都大学防災研究所、関西大学社会安全学部

イ 共催

自然災害研究協議会近畿地区部会

ウ 企画

BEYOND 30+ (メモリアル・コンファレンス・イン KOBE) 企画実行委員会 (事務局:
人と防災未来センター事業部普及課)
企画実行委員会委員長 奥村 与志弘 (関西大学社会安全学部教授)
企画実行委員会副委員長 中野 元太 (京都大学防災研究所 巨大災害研究センター
准教授)

(3) ワークショップ

ア 日時 令和7年10月18日(土) 13:00～15:00

イ 内容 ・奥村委員長挨拶、趣旨説明
・ワークショップ
・グループ発表
・講評

ウ 会場 国際健康開発センター (IHD) ビル3階 31 A～C会議室

<ワークショップグループタイトルと発表者>

- 1 次世代への継承方法 (ぼうさい絵本) (人と防災未来センター 具研究員)
- 2 ゲリラ豪雨マスターになろう! (人と防災未来センター 黒田研究員)
- 3 デザインから見た防災 (NPO 法人防災デザイン研究会 (株式会社 GK 京都) ト部委員)
- 4 「REC KOBE」プロジェクトの紹介 (ラジオ関西 西口委員)
- 5 震災体験インタビューの内容と、防災カレンダーの進捗状況発表 (兵庫県立舞子高等学校生徒)
- 6 今後の本校の取り組みの方向性について (兵庫県立尼崎小田高等学校生徒)
- 7 地域のユース世代による地域防災の実現に向けて (TEAM-3A)

<企画実行委員以外の参加者所属団体>五十音順

国立明石工業高等専門学校 D-PRO135° (地域連携)

国立明石工業高等専門学校 D-PRO135° (開発)

兵庫県立尼崎小田高等学校

KiDS (関西大学)

TEAM - 3A

兵庫県立大学
兵庫県立舞子高等学校



ワークショップの様子

(4) 大交流会

ア 日時 令和8年1月10日(土) 13:00～16:00

イ 会場 人と防災未来センター西館1階ガイダンスルーム 参加者 92人

ウ プログラム

<開会挨拶>

BEYOND 30+ (メモリアル・コンファレンス・イン KOBE) 企画実行委員会委員長
関西大学社会安全学部教授 奥村 与志弘

<企画趣旨説明>

BEYOND 30+ (メモリアル・コンファレンス・イン KOBE) 企画実行委員会委員長
関西大学社会安全学部教授 奥村 与志弘

<活動紹介セッション：展示（ポスター作品等）>

出展団体（14団体）

- 1 兵庫県立尼崎小田高等学校 看護医療・健康類型
- 2 TEAM-3A
- 3 関西大学社会安全学部
- 4 防災世界子ども会議実行委員会/NPO法人JEARN
- 5 KiDS (Kyoto & Kansai University Disaster prevention School)
- 6 株式会社防災アプローチ
- 7 NPO法人松山さかのうえ日本語学校・京都大学防災研究所
- 8 国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°
- 9 神戸市立工業高等専門学校 EC3
- 10 兵庫県立大学学生災害復興支援団体 LAN
- 11 兵庫県立舞子高等学校
- 12 帝京大学 社会安全技術研究室
- 13 U35 防災ゼミ
- 14 神戸市立福田中学校

<パネルディスカッション「Beyond 30+ を考える」>

【コーディネーター】

BEYOND 30+ (メモリアル・コンファレンス・イン KOBE) 企画実行委員会副委員長
中野 元太 (京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 准教授)

【中野先生のサポート役】

南 貴久 (人と防災未来センター 研究部 研究員)

【パネリスト】

加藤 光明（国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°）

池田 彩乃（兵庫県立尼崎小田高等学校）

奥田 彩世（TEAM - 3A）

長谷川虎粹（兵庫県立舞子高等学校 環境防災科）

メディア関係：西口 正史（ラジオ関西ビジネスソリューション局）

行政機関：福田 敬正（神戸市職員（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科））

学術関係：寺井 美紀（神戸学院大学 現代社会学部）

民間企業：横山 愛子（株式会社G K 京都）

人と防災未来センター：高見 隆（副センター長）

【講評・閉会挨拶】

河田 恵昭

BEYOND 30+（メモリアル・コンファレンス・イン KOBE）企画実行委員会顧問

人と防災未来センター長



活動紹介セッション



パネルディスカッション

4 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」選奨事業

(1) 趣 旨

阪神・淡路大震災の経験を通して学んだ自然の脅威や生命の尊さ、共に生きることの大切さを考える「防災教育」を推進し、未来に向け安全で安心な社会をつくるため、全国の子どもや学生が学校や地域において主体的に取り組む防災活動等を募集した。

選考委員会（委員長：河田恵昭 人と防災未来センター長）による審査により各賞を決定し、令和8年1月に人と防災未来センターにおいて、表彰式・発表会を開催するとともに、全国の児童・生徒・学生や学校関係者等の情報交流を図った。

(2) 実施体制

ア 主 催

兵庫県、(株)毎日新聞社、(公財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構（阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター）

イ 後 援

内閣府、総務省消防庁、文部科学省、国土交通省、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、関西広域連合、ひょうご安全の日推進県民会議

ウ 協 賛

独立行政法人都市再生機構

(3) 募集期間

令和7年6月13日～9月30日

(4) 選考委員会

ア 開催日 令和7年11月13日

イ 場所 兵庫県災害対策センター 本館3階会議室

ウ 選考委員

委員長 河田 恵昭（人と防災未来センター長）

副委員長 唐津 肇（兵庫県危機管理部長）

副委員長 長谷川 豊（毎日新聞大阪本社編集局長）

委員 内山 晃治（内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（普及・防災教育・NPO ボランティア連携担当））

委員 島村 秀明（独立行政法人都市再生機構西日本支社災害対応支援室長）

委員 鈴木あかね（兵庫県立舞子高等学校環境防災科 科長）

委員 中園 和貴（文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 課長）

(5) 表彰式・発表会

ア 日時：令和8年1月24日（土）13:00～16:00

イ 場所：人と防災未来センター こころのシアター 他

ウ 参加者数：約180名

エ 内容

・開会のことば：河田 恵昭（人と防災未来センター長）

・主催者あいさつ：齋藤 元彦（兵庫県知事）

長谷川 豊（毎日新聞大阪本社編集局長）

・表彰式：1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰

防災力強化県民運動ポスターコンクール表彰

・発表会：1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」受賞団体による活動発表

・講評：河田 恵昭（人と防災未来センター長）

・閉会



表彰式・発表会の様子

(6) 記録誌の発行

今年度の受賞校の活動概要等を、今後の防災教育の実践活動を行う上での参考となるよう記録誌として発行した。

※ 選考結果の詳細は参考資料（188 頁）に掲載



2 項 メールマガジン・ホームページ等

災害専門研修の受講者や研究員によるコラム、企画展やセミナー開催等の情報を記載したメールマガジンを 20 回発行した（メールマガジン登録 1,298 件）。

ホームページについては、関西・大阪万博の開催を踏まえ、外国人来館者をはじめとした多様な利用者に向けた多言語展開を中心とした機能拡張を行い、9 言語（英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、ベトナム語、タイ語（AI 翻訳）、インドネシア語（AI 翻訳））への対応およびデザインリニューアル、鳥瞰図絵師の青山大介氏による館内マップの構築、イベント情報機能の改善、資料室情報の見直し等を実施した。

「お知らせ」では 111 回の発信を行った。

また、SNS との連動を図り、ひとぼう公式 Instagram をトップページに配置するなど、ソーシャルシェア機能を導入した。





Ⅵ章 事業評価委員会

1 事業評価委員会

1 節 事業評価委員会

(1) 第25回事業評価委員会の開催

- ① 実施時期：令和7年8月25日（月）14:00～16:00
- ② 開催場所：人と防災未来センター東館6階会議室
- ③ 出席委員：林委員長、福和副委員長、市川委員、矢守委員、中村委員、門前委員（代理出席）
- ④ 検討事項：各委員が事務局からの事前説明や資料を基に独自の事業評価を行った。この評価をベースに委員会で議論を行い委員会としての評価を作成した。

(2) 事業評価委員会委員名簿（令和7年度末現在）

氏 名	役 職
林 春男 （委員長）	京都大学名誉教授
福和 伸夫 （副委員長）	名古屋大学名誉教授 あいち・なごや強靱化共創センター長
市川 宏雄	日本危機管理防災学会長
矢守 克也	京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授
中村 順子	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸 理事長
貫名 功二	内閣府大臣官房審議官（防災担当）
門前 浩司	消防庁国民保護・防災部長

